

主要科目の特長・科目ごとの目標等

○人間総合学群

・人間文化学類

＜英語コミュニケーション専攻＞

「English Workshop」

「聞く」「読む」「話す(やりとり・発表)」「書く」の4技能5領域の力を発展させるため、より良い学習効果上げる方法を身につけることが目的である。特に「話す」ことに重点を置き、英語ネイティブ教員による小グループの会話を通し、コミュニケーションの技法を学ぶ。英語日記・多読を通し、語彙力、文法力を育成する。日本人教員は個々の学生へのフィードバックを通し、それぞれの学生に合ったより良い学習法を提示する。

「ライティング・使える英作文」

基本的な単語や文法構造を理解した上で、英語らしい英文に直すことができるようになることを目指す。日本語を1文ずつ英訳するところから始め、最終的には文のつながりや展開にも気を付けながら、まとまった日本語を英文にすることができるように指導する。外国の方々が読んで理解してもらえるような英作文力を身につける。

「異文化理解」

日本人と異文化の交流について西洋文化、英語圏の文化を中心に概説し、異文化理解の基礎知識を修得することを目的とする。近世初頭からの南蛮文化、イギリスとの出会い、オランダ文化の日本への移入をたどった後、現在の英語圏の文化の特徴を学ぶ。そして日本と西洋、ことに英語圏の文化との異文化交流の意義について考える。

「映画の英語」

教科書の英語と実生活で使われている英語の違いを、映画を通して学んでいくことを目的とする。登場人物が話す内容を、できるだけ普段使う言葉に翻訳をしていくことで、自分の生活を英語でとらえていくことができる。内容理解の確認は映画の日本語字幕作成を通して行う。字幕作成は、限られた字数の中で効果的に内容を伝えることを考えることは、改めて日本語のもつ豊かさを発見するよいきっかけにもなるであろう。

「6か月留学」

6 か月間の留学生活を通じて、語学力の向上のみならず、グローバルな視野の獲得を目指す。自国を客観視することで、それまで当たり前と思っていたことに対する疑問を持ち、文化や歴史の重要性を再認識することができる。様々な文化や歴史背景を持つ留学生とともに講義を受け、生活をすることによって、グローバル社会の中でどのように行動をしていくことが、自身の能力の向上につながっていくのかを学ぶことができる。

「英語コミュニケーションゼミ」

ビジネス英語とグローバル企業の研究、英語教育法、第二言語取得理論などさまざまなテーマをもとに研究活動に着手するためのスキルを修得することから始め、各自の研究活動を展開していく。必要に応じてフィールドワークや共同リサーチ活動を実施し、問題解明に必要な情報や資料・データの収集に注力する。最終的には研究成果をレポートや論文・報告書にまとめる活動に取り組むまでを指導していく。

〈学類共通科目〉

「日本文化実習」

本実習は、茶道・華道等の日本を代表する伝統文化についての理解を深め、その意義を深く考察しつつ、作法や所作を実践的に身につけることを目的とする。具体的には、茶道や華道の歴史に関して講義を行うとともに、実際に茶道や華道の基本的な作法を実践する機会を設けて、日本の伝統文化や日本人の美意識や自然観の特質を体系的に理解できるように導く。

「プレゼンテーション実習Ⅰ」

研究発表のプレゼンテーションを念頭に置き、基本的な発表の技法を指導する。非言語的コミュニケーションの重要性、基本的な「語り」「話し方」のスキル、リサーチ情報の整理と提示の工夫、聴衆と状況に応じたプレゼンのスタイル、プレゼンテーション・ソフトの効果的な使い方、などを取り上げる。“人前で話すこと”への抵抗感を払拭し、自信をもって研究発表に臨めるようなマインドを修得させる。

「チャレンジ TOEIC」

自身のスキルアップのために TOEIC に挑戦しようと考えている学生を対象とした授業である。リーディングやリスニングに必要な語彙学習や文法学習を体系的に行うと共に、リーディング・リスニング活動を十分に行うことにより両技能の向上を図る。リーディングおよびリスニング問題の出題傾向から正答を導き出すためのストラテジーを学び、問題演習を通して実践力を養う。各自目標を設定し、それに向けて学習し、目標達成を目指す。